

A50-

昭  
三  
十  
年

滿洲ニ於ケル支那側ノ條約蹂躪

外務省情報部

情
91
外史

REEL No. 調-0104

アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp/>

概 説	一
第一、條約ニ對スル國民政府ノ態度	四
第二、滿洲ニ於ケル日本ノ鐵道權益侵害	七
一、新線敷設問題	七
(イ) 吉會線	七
(ロ) 長洮線	八
(ハ) 海吉線	八
二、平行線問題	九
(イ) 海吉線	九
(ロ) 打通線	一一
三、借款契約訂立、借款元金算定等ニ關スル問題	一一
(イ) 四洮線	一一

目 次

外務省
情 91
國 書 館
41.9.-7

(ハ)	逃昂線	二二
(ロ)	吉敦線	二二
	第三、不當課税	
	一、屬人の不當課税	二四
(イ)	厘金其ノ他厘金類似ノ内地通過税	二四
(ロ)	營業税	二五
(ハ)	統 税	二六
(ニ)	大連港二重課税	二六
(ホ)	撫順炭等ニ對スル輸出税増徴	二六
	二、屬地の不當課税	二七
	第四、商租權侵害	二八
	第五、朝鮮人壓迫	二二
(一)	小作契約ノ禁止	二三
(二)	居住ノ壓迫	二四

(三)	學校ノ設立制限並閉鎖	二五
(四)	不法監禁	二六
(五)	歸化強要	二六
(六)	間島協約ノ不履行	二七
	第六、其ノ他ノ條約違反著例	二九
	一、奉天城内居住邦人壓迫	二九
	二、製造品差別待遇	二九
	三、鑛山經營妨害	三〇

## 概 説

滿洲問題ニ對シテ的確ニシテ正鵠ヲ得タル判斷ヲ得ル爲メニハ、先ツ滿洲ニ於ケル日本ノ特殊の地位特別ナル關係ヲ知ラネハナラス。而シテ之カ爲メニハ其ノ歴史的背景、殊ニ日露戦争前後ノ日支露ノ三角關係ヲ先ツ知ルヲ要シ、次テ戦後ニ於ケル滿洲ノ經濟的、文化的開發ニ對シ、日本カ如何ニ寄與貢獻シタカヲ明確ニ認識シナケレハナラス。

日本ハ露國ノ滿洲侵略ニ依ル我國防上ノ危機ヲ避ケ東亞ノ禍亂ヲ防壓センカ爲メ、幾萬ノ生靈ヲ犠牲ニシ今ニ至ル迄國民ノ負擔トシテ存続スル程ノ國帑ヲ費消シ、國家ノ存亡ヲ賭シタノテアル。其ノ後日本ハ約二十億圓ノ莫大ナル資本ヲ投シテ滿洲ノ經濟的文化的開發ニ努メタ。日本カ滿洲ノ開發ニ從事シテ以來滿洲ハ其ノ面目ヲ一新シ、滿洲ノ外國貿易ハ實ニ十倍スルニ至ツタ。支那本部ノ内亂熄マサルニ反シ、滿洲ハ獨リ平和ニシテ秩序維持セラレ、世界ノ識者ヲシテ支那ノ「オアシス」ト稱セシムルニ至ツタ。年々數十萬ノ支那人カ滿洲ニ移住シ、明治三十八年一七百萬内外ノ人口カ今日ニ至ツテハ三千萬内外ニ増加シタコトハ何ヨリノ證左テアラウ。即チ支那自身モ亦滿洲ノ開發ニ依ツテ無限ノ利益ヲ得テ居ルコトハ争フヘカラサル事實アル。以上

ノ事實ヲ知ラハ日本カ滿洲ニ對シテ政治上經濟上重大ナル利害關係ヲ有スルコトヲ悟ルニ左シテ  
困難ヲハアルマイ。而シテ滿洲ニ於ケル日本ノ權益ハ確乎タル條約上ノ根據ヲ有シ、國際間ニ於  
テ堂々其ノ存在ヲ立證シ得ルノミナラス、何レモ永年ニ互ル歴史の沿革ヲ有シ、今ヤ我カ國民的  
生存ノ必要條件トナツタ。

斯クテ滿洲ニ存在スル我權益ハ我國自身ノ運命ト直接不可分ノ關係ヲ有スルモノテアルトノ確信  
ヲ生ミ、從テ此ノ權益ニ對スル脅威ハ即チ我カ國民的生存ニ對スル脅威ニ外ナラサルコト、日本  
國民上下各階級ヲ通シテノ確信トナツタ。

斯クノ如ク滿洲ニ於ケル我カ權益ハ條約上正當ニ得タルモノナルニ拘ラス、從來支那側ニ於テハ  
我方ノ權益ニ對シテ事毎ニ妨害ヲ加フルノミナラス、更ニ進ンテハ歴然タル條約違反ノ行動ヲ敢  
テスルニ至リ、果テハ責任アル當路者ニシテ我ニ對スル挑發的言辭ヲ弄スル等支那官民ノ態度次  
第二惡化シ、甚タシキニ至リテハ滿洲ニ於ケル我カ權益ノ根底的覆滅ヲサヘ主張スルモノアルヲ  
見ルニ至リ、其ノ他極端ナル排日教育ヲ實施シテ小國民ヲシテ日本ニ對スル復讐心ヲ涵養セシメ、  
或ハ反日團體ヲ組織シテ機關雜誌ヲ發刊シ集會ヲ催シ、又新聞ヲ利用シテ極力過激ナル排日宣傳  
ヲ試ミ、兩國間ノ感情ヲ惡化セシメ、不當不法ナル排日貨ヲ實行シテ日貨ヲ取引スル商人ヲ逮捕監

禁シ、其ノ貨物ヲ沒收スル等我方ニ對スル露骨ナル敵對行動ノ益々熾烈ナラントスルモノアルニ  
至ツタ。

斯クノ如キ支那側ノ態度カ我方ノ憤懣ヲ招來スルハ寧ロ當然ニシテ、殊ニ我方ニ於テ死活的利害  
關係ヲ以テ目シ居ル滿洲問題ヲ廻ル兩國間ノ空氣ハ益々險惡ナルモノカアリ、我方ニ於テハ深ク  
之ヲ憂ヒ、事態ノ改善ニ努力シ來ツタカ、中村大尉虐殺事件起リ、之カ解決交渉ニ際シテ支那側  
ニ些ノ誠意ナク、却ツテ我ヲ侮ルノ風已マヌ、我方ノ憤懣措ク能ハサルモノアツタカ、而モ他ク  
迄平和ヲ望ム我方ハ和協的態度ヲ持シテアツタ。然シ斯ル政治的雰圍氣裡ニ在テ、日本國民カ  
激昂ヲ極メテ居ラタノハ蓋シ避ケ難キコトト云ハネハナラス。折柄九月十八日夜ニ至リ、支那軍隊  
ハ突如トシテ我カ滿鐵線路ヲ襲撃爆破スルノ暴舉ヲ敢テシタ。從來トテモ匪賊ニ係ル滿鐵竝ニ附  
屬地ノ襲撃ハ屢々行ハレタノテアツタカ、支那正規軍ノ斯クノ如キ暴舉ハ始メテアツタ。之ニ對  
シ我方ハ自衛ノ措置ニ出ツルノ已ムナキニ至ツタノテアル。

之ヲ要スルニ今次事件ハ一朝一夕ノ偶發事件テハナク、其ノ由來スル所遠大深刻ナルモノカアル。  
此ノ根底的禍因ニ觸ルルコトナク、之ヲ單純ナル偶發事件トシテ處理スルカ如キハ不可能ノ事テ  
アル。

第一、條約ニ對スル國民政府ノ態度

四

支那政府ハ夙ニ勦モスレハ國際的約束ヲ輕視スルノ傾向カアツタカ、殊ニ國民政府樹立後ニ至ツテハ國權回復ノ風潮熾烈トナルニ連レ、政府モ黨部モ自國ニ不利益ナル條約ハ總テ不平等條約ノ名ノ下ニ一括之ヲ撤廢スルコトヲ根本的信條ト爲スニ至リ、之ヲ以テ政府ノ根本方針ノ一ト爲シタコトハ大正十三年一月二十一日ノ國民黨第一回全國大會宣言等ニ見ルモ明カテアル。  
殊ニ所謂聯露容共政策ヲ執ツタ時代ニハ「ソグイェト」流ノ直接行動ニ依ル條約廢棄ヲ事トシ、夫ノ漢口及九江ノ英國租界ヲ實力ヲ以テ奪回シタルカ如キハ正ニ此ノ時代ノ出來事デアツタ。  
其ノ後南京政府トナツテカラハ稍々穩健ナル形式ヲ取ルニ至ツタカ、其ノ實質ニ於テハ依然トシテ當時ノ精神ヲ存續シタコトハ疑ヒモナク、國民政府外交當局カ屢々期限ヲ定メテ條約上ノ重要ナル權益回收ヲ目的トスル計劃ヲ發表シテ國民ニ之ヲ公約シタルカ如キハ正ニ其ノ證左テアル。  
又實際ニ於テ政府ハ一方的ニ國際條約ノ廢棄無効ヲ宣言シタコトモ一再テハナイ。昭和四年十二月一方的ニ翌年一月一日ヲ期シテ治外法權ノ撤廢ヲ宣言シ、更ニ昭和五年十二月關係各國ニ對シ、翌年二月末迄ニ治外法權撤廢問題カ解決セサルニ於テハ、支那側トシテハ交渉以外ノ方法ニ

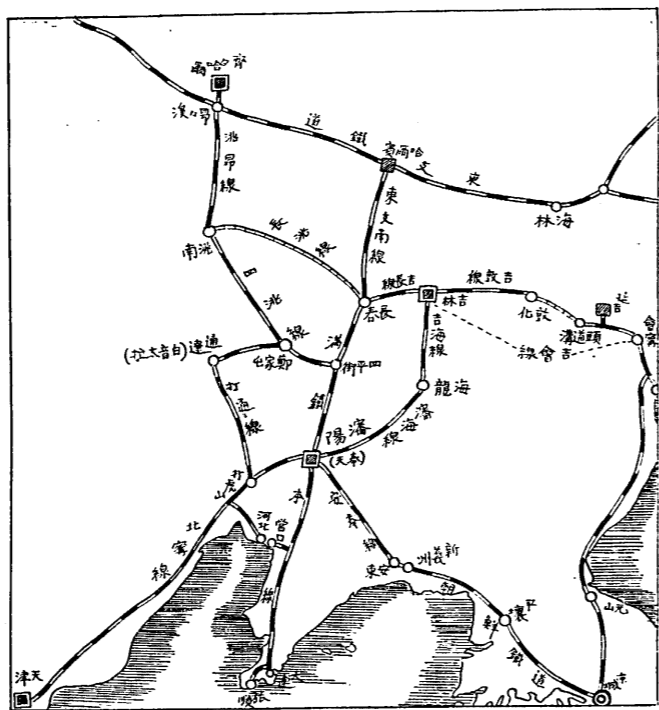
訴フルコトアルヘキヲ暗示セル威嚇的通牒ヲ發シタルカ如キ其ノ顯著ナル一例テアル。

右ノ如キ支那側ノ條約否認ノ行動ハ獨リ前記治外法權撤廢等ノ如キ列國ノ共同的條約ニ止マラス、列國カ各箇ニ締結シタル條約ニ於テモ屢々經驗スル所ニシテ、之ニ對シテハ其ノ條約ノ性質ニ從ヒ、又其ノ場合ニ依リ或ハ單獨ニ或ハ共同シテ嚴重抗議ヲ提出シタル例頗ル多ク、其ノ對策ノ攻究カ從來在支外交團及領事團ノ主要ナル討議題目デアツタト云フモ敢テ過言テハナイ。而シテ此等ノ抗議ニモ拘ラス、支那側カ依然トシテ其ノ非違ヲ押通シタル場合、或ハ屈從默認シタル例モアルカ、他國ノ場合ハ如何トモアレ特ニ重大ナル利害關係ヲ有スル日本トシテハ、支那側ノ非違ヲ容認スルコト能ハサルモノアルハ當然デアラネハナラス。

支那側カ日支通商條約ノ失效ヲ主張シ、日本ノ有スル條約上當然ノ權利ヲ無視シテ一方的ニ臨時辦法ナルモノヲ制定シ、兩國間ニ紛議ヲ生シタルカ如キ其ノ適例テアル。

殊ニ大正四年ノ所謂二十一ヶ條條約ニ關シテハ、支那側ハ日本ノ強要ニ依リ調印セルモノナルコトヲ述ヘテ、其ノ無効ヲ主張スルモ正當ノ手續ヲ經テ締結セラレタル條約ヲ締約國ノ一方カ其ノ好マサリシ故ヲ以テ廢棄シ得ルトスレハ、「ヴェルサイユ」條約ノ如キモ、又遼東半島還附條約ノ如キモ其ノ效力ヲ爭ハルルコトナリ、既存ノ國際條約ハ悉ク安定性ヲ缺クニ至ルヘク、斯クテ

五



ハ國際的秩序ノ維持ハ一日モ保タレナイ結果トナルテアラウ。此ノ見地カラ日本ハ華府會議ノ際  
 明確ニ日本ノ立場ヲ宣明シタカ、其後尙ホ支那側ハ該條約ノ廢棄ヲ要求シ來タノニ對シ、全然之  
 ヲ承認シ得サルコトヲ回答シタ。經緯カアル。然ルニ支那側ハ一方的ニ其ノ效力否認ノ方針ヲ持シ、  
 日本ノ權益ヲ蹂躪シテ居ルコトハ不都合ト云ハネハナラヌ。  
 以上ハ支那側カ條約自體ノ效力ヲ否認シタル例ヲアルカ、事實上條約ノ規定ヲ無視シテ不當ニ日  
 本ノ權益ヲ侵害セル例ハ殆ント枚擧ニ遑ナク、日本側ノ反覆抗議ニモ拘ラス敢テ救正ノ方法ヲ講  
 シナイ所ヨリ見レハ、支那側從來ノ意圖カ直接行動ニ依ツテ自國ニ不利益ナル條約ハ之ヲ否認ス  
 ルニアツタコト一點疑ヒナイ所テアル。  
 中央政府ニシテ此方針テアル以上地方政府モ亦同様ナルコト云フ迄モナク、滿洲ニ於ケル鐵道ニ  
 關スル條約ヲ始メトシテ支那側ノ蹂躪シタル事例夥シク、以下其ノ顯著ナル一斑ヲ擧ケテ全斑ヲ  
 察知スルノ一助タラシメタイ。

## 第二、滿洲ニ於ケル日本ノ鐵道權益侵害

### 一、新線敷設問題

#### (イ) 吉會線(吉林—會寧間)

吉會線ノ敷設ハ明治四十年新奉及吉長鐵道ニ關スル協約ニ於テ豫想セラレ、又明治四十二年間島ニ關スル協約ニ於テ約束セラレ、更ニ大正七年吉會鐵道借款豫備契約ニヨリ一千萬圓ノ前貸金ノ交付ヲ見タルモ、實現ノ運ヒニ至ラナカッタ。

越エテ大正十四年滿鐵ト支那政府トノ間ニ吉敦線(吉林—敦化間)建設請負契約成立シ、同線ハ昭和三年十月竣工シタカ、我方ニ於テハ更ニ敦化老頭溝間ヲモ滿鐵ヲシテ吉敦線ノ延長トシテ工事ヲ請負建設セシメ、老頭溝以南ハ現在ノ天圖鐵道ヲ廣軌ニ改築シ以テ朝鮮側鐵道ト連絡セシムルコトトシ、其結果昭和三年五月十五日滿鐵ト北京政府交通部トノ間ニ吉敦鐵道延長建造請負契約調印セラレ、調印後一ケ年以内ニ起工スヘキコトヲ定メタルモ、支那側ニ契約履行ノ誠意ナク未タ起工ノ運ニ至ラナイ。



(ロ) 長洮線(長春—洮南間)

八

大正二年滿蒙五鐵道協定及大正七年滿蒙四鐵道協定ニ依リ、支那政府ハ日本資本家ヨリノ借款ヲ以テ長洮線ヲ修造スルコトヲ約シ、大正七年同線ヲ含ム滿蒙四鐵道借款豫備契約成立シ、前貸金二千萬圓ノ交付ヲ見タルモ建設實現ノ運ニ至ラス。  
越エテ昭和三年五月十五日滿鐵ト北京政府交通部トノ間ニ長大線(長春—大賚間)建造請負契約調印セラレ、調印後一ケ年以内ニ起工スヘキコトヲ定メタルモ、支那側ノ誠意ナキ爲未タ起工ニ至ラス。

(ハ) 海吉線(海龍—吉林間)

大正七年滿蒙四鐵道協定ニ依リ支那側ハ日本資本家ヨリノ借款ヲ以テ開原、海龍、吉林線ヲ建設スルコトヲ約シ、同年該線ヲ含ム滿蒙四鐵道借款豫備契約成立シタルモ建設ノ運ニ至ラス。尤モ開原海龍線ニ付テハ我方ハ大正十三年滿鐵奉天當局間ノ諒解ニ依リ借款敷設權ヲ拋棄シタルモ、海龍吉林線ニ付テハ依然トシテ我方ニ借款敷設權アル譯テアル。然ルニ支那側ニ於テハ右我方ノ權利ヲ無視シ自己ノ資金ヲ以テ之ヲ建設シタ(平行線問題ノ部參照)。

二、平行線問題

明治三十八年日清會議ニ於テ支那側ハ滿鐵ノ利益ヲ保護スルノ目的ヲ以テ、滿鐵ノ附近ニ之ト平行スル幹線又ハ其ノ利益ヲ害スヘキ枝線ヲ敷設セサルコトヲ約束シ居ルニ拘ラス、之ヲ無視シテ其ノ東部ニ海吉線其ノ西部ニ打通線ヲ建設シ、其ノ結果東部ニハ海吉、奉海兩線ヲ連ネ京奉線ニ連絡スル線、西部ニハ打通線、通遼線、鄭洮線ヲ連ネテ洮昂線ト連絡スル線ノ二大平行線ノ出現ヲ見ルニ至ツタ。之レ滿鐵ヲ東西ヨリ包圍シテ滿鐵ヲシテ經濟上無意義ナラシメントスル支那側不信ノ企テノ表レテアル。

(イ) 海吉線(海龍—吉林間)

大正十五年八月支那側ハ吉林海龍間ノ鐵道敷設ヲ計畫シ、之ヲ奉海線ニ接続セシムル豫定ナルコトヲ發表シタ。然ルニ右ハ大正七年滿蒙四鐵道ニ關スル日支協定ニ基ク吉林海龍間ノ我カ留保線即チ日本ノ借款ヲ以テ敷設スルコトニ留保セラレタル線(元來此ノ留保線ハ吉林、海龍、開原間ノ鐵道ニ關スルモノテアツタカ、大正十三年開原海龍間ハ支那側自ラ建設スルコトヲ承認シタノテ

九

爾後我方留保線ハ吉林海龍間ニ止マツタ譯テアルト同一地域ヲ通過スルコトナルノミナラス、モトモト我方カ右ノ留保線ニ關スル權利ヲ獲得シタノハ前述ノ如ク日清會議中平線防止ニ關スル諒解ノ趣旨ニ基キ此ノ如キ滿鐵ト平線ハ我方ノ手ニ依リ之ヲ敷設スルコト當然デアルトノ考ヘニ依ルモノデアツタノテ、大正十五年十一月以來屢々支那側ニ嚴重抗議シタカ、支那側ハ之ヲ無視シ昭和二年六月二十五日起工シ昭和四年五月十五日之ヲ竣工シタ。

尙ホ海吉線ヲ滿鐵ノ競爭線タラムル關鍵ハ奉海線ト京奉線トノ連絡如何ニ係ルモノテアルカ、大正十一年支那カ京奉線根線ヨリ兵工廠ニ至ル引込線ヲ敷設セントシタル時、我方ニ於テハ夫レカ兵工廠專用線タル見地カラ之ヲ默認シタ、然ルニ其ノ後奉海線ノ建設ニ際シ此ノ兵工廠引込線ト奉海線トノ連絡行ハレタルカ、斯クテハ京奉奉海兩線ヲ接續セシムルコトナルノミナラス、之ヲ商業上ノ目的ニ利用スルハ滿鐵ノ利益ニ影響スル所極メテ大ナルモノアリ、明治四十四年京奉線延長ニ關スル協定中城根線ニ關スル取極ノ精神ニモ反スル譯テ、昭和三年四月支那側カ洮昂線ノ車輛ヲ無斷ニ奉海線ニ廻送シタ際右ノ趣旨ニテ抗議ヲ爲シ、爾來引込キ之ヲ阻止スルノ態度ヲ持續シテ來タ。

(ロ) 打通線(打虎山―通遼間)

大正十四年八月支那側ハ京奉線打虎山驛ヨリ北方八道壕炭坑ニ至ル運炭鐵道(大正十一年十二月完成)ヲ新立屯迄延長シ、大正十五年四月更ニ之ヲ北方ニ延長シテ四洮線通遼ニ至ル線ノ工事ニ着手シタノテ、我方ハ同年八月以來右ハ我方ノ資本及技術ヲ利用シテ建設シタル洮昂四洮兩線ヲ逆用シテ滿鐵ノ不利益ヲ計ラントスルモノナルノミナラス平行線不建設ノ諒解ニ悖ルトノ趣旨ヲ以テ屢々嚴重抗議シタカ、支那側ハ之ヲ無視シテ工事ヲ強行シ昭和二年一月新立屯彰武間ヲ完成シ、同年十月二十四日彰武通遼間ヲ完成シタ。

三、借款契約訂立、借款元金算定等ニ關スル問題

(イ) 四洮線(四平街―洮南間及其ノ枝線鄭家屯―通遼間)

大正八年滿鐵ト支那政府トノ間ニ四洮鐵道借款契約締結セラレ同鐵道ノ財産收入ヲ擔保トシテ四千五百萬圓ノ公債ヲ發行スル權限ヲ附與セラレタルカ、右公債發行ハ經濟事情ノ變動ニ依テ不能トナツタ。ソコテ大正九年一時辦法トシテ滿鐵トノ間ニ短期借款契約ヲ締結シ、其ノ後一年毎ニ更新シ鄭家屯通遼間及ヒ鄭家屯洮南間ノ工事ヲ完成シタ。大正十四年五月第六次ノ借款契約更

新行ハレ(金額三千二百萬圓)翌年五月第七次ノ更新行ハルル等ナリシモ、支那側ハ借款金利低減ヲ要求シテ之ヲ肯セス、爾來更新ヲ見ルニ至ラス昭和四年八月現在ノ延滞利子一千二百餘萬圓ニ達シタ。

(ロ) 洮昂線

大正十三年奉天省ト滿鐵トノ間ニ洮昂鐵道建造請負契約締結セラレ(交通部承認)滿鐵ハ之ニ基キ工事ヲ施シ、昭和二年七月三十日引渡ヲ完了シタカ建造請負代金一千二百九十二萬圓ニ對シ支那側ハ監督費等ニ疑義アリトナシ、未タ請負金額決定スルニ至ラス。又支那側ハ同鐵道請負契約ニ違反シ滿鐵派遣ノ顧問ニ規定ノ權限ヲ附與セス。

(ハ) 吉敦線

大正十四年滿鐵ト支那政府トノ間ニ吉敦鐵道建造請負契約締結セラレ、後昭和二年交通部ノ承認ヲ經テ請負金額ヲ二千四百萬圓ニ決定シタ。滿鐵ハ右ノ請負契約ニ基イテ工事ヲ施シ昭和三年十月十日營業ヲ開始シタ。

然ルニ請負金額二千四百萬圓ニ對シ、支那側ハ工事費高價且工事粗雑ナリト稱シテ之ヲ承認セス、從テ工事未完成ノ理由ノ下ニ滿鐵ヨリ同鐵道請負契約ニ基キ會計主任備聘方ヲ要求スルモ之ニ應

シナイト云フ有様テアル。

### 第三、不當課税

一四

支那ニ於テ治外法權ヲ有スル國民ハ、一八五八年佛支間天津條約第四〇條（各國ハ最惠國待遇ニ依リ之ニ均當ス）ニ依リ條約ニ於テ明定セラレタルモノヲ除クノ外一切ノ義務（課税ヲ含ム）ニ服セサルコトトナリ居ルヲ以テ關稅噸稅等條約ニ於テ明定セラレタルモノ以外ノ課税ハ凡テ不當課税テアル。又滿鐵附屬地ニ於テハ日本ハ條約上正當ノ根據ニ基キ絕對的排他的行政權ヲ有シテ居リ、從テ支那側ノ課税權ハ排除セラレ居ルヲ以テ特別ノ規定アルモノヲ除クノ外一切ノ課税ハ、治外法權國民ニ對スル場合ハ勿論治外法權ヲ有セサル外國人及支那人ニ對スル場合ニ於テモ不當課税タルヲ免レナイ。即チ前者ハ屬人的不當課税ニシテ、後者ハ屬地的不當課税テアル。然ルニ支那側ハ我カ當然ノ權利ヲ侵害シテ、種々ナル不當課税ヲ敢テシテ我カ正當ナル權益ヲ蹂躪シツツアル。今之ヲ最近ノ實例ニ就テ説明センニ

#### 一、屬人的不當課税ノ例

(イ) 厘金其他厘金類似ノ内地通過税

開港場ノ以外内地ニ於テ、厘金其他厘金類似ノ内地通過税ヲ課スルコトハ從來條約ニ依リ認めラレタルカ、一九二八年乃至一九三〇年支那ト各國間ノ關稅自主承認ニ關スル協定ニ依リ、支那ハ成ルヘク速ニ之ヲ廢止スヘキコトヲ約束シ、其ノ結果支那ハ一九三一年一月一日ヨリ厘金其他類似ノ内地税ヲ廢止スルコトトシタルモ未タ完全ニ實行シテ居ラナイ。殊ニ奉天城内ハ條約ニ依ツテ開放セラレ從テ支那内地ト同視スヘカラサル譯テ、此ノ點ニ付テハ從來諸外國間ニ何等異論ヲ見ルコトナク從テ一度輸入港ニ於テ輸入税ヲ納付シタル商品ハ、之ニ對シ何等ノ税金ヲ支拂フノ必要ナキニ拘ラス、支那側ニ於テハ奉天城内搬入ノ本邦品ニ對シ銷場税ヲ賦課シ、其ノ支拂ナキ場合ニ於テハ取引先支那人ニ壓迫ヲ加フル等凡ユル妨害ヲ與ヘテ居ルカ、銷場税ノ如キハ開放地タル城内搬入ノ外國貨物ニ對シ、内地通過税ヲ課スルモノニシテ明ニ不當ナルヲ以テ我方ニ於テハ之ニ抗議シテ居ル。

(ロ) 營業税

最近支那各地ニ於テ邦人ニ營業税ヲ課セントシツツアルカ、右ハ營業自身ノ收入ヲ目的トスルモノニシテ、條約ニ依リ認めラレ居ラサルヲ以テ我方ニ於テハ之ニ抗議シテ居ル。

一五

(ハ) 統 税

支那側ニ於テハ同國輸入ノ本邦品及支那ニ於ケル邦人製品ヨリ生産税又ハ消費税ノ性質ヲ有スル  
統税等ヲ徵收シテ居ルカ、輸入綿糸ニ對スル消費税ハ一九三〇年日支關稅協定附屬書ニ依リ認メ  
ラレ居ルモ、右以外ノ統税ハ條約上認めラレテ居ラヌモノテアリ明ニ不當テアル。

(ニ) 大連港二重課税

明治四〇年大連海關設置協定(第九條)ニ依リ支那通商港仕出大連向輸入外國貨ニ對シテハ、支  
那通商港ニ於テ納メタル輸入税ヲ拂戻シ、以テ關稅ノ二重課税ヲ避クルコトナリ居ル處、昭和  
六年四月以降右拂戻ヲ廢止シタル結果、支那通商港經由大連仕向外國貨ハ二重ニ輸入税ヲ課セラ  
ルルノ不都合ヲ見ルニ至ツタノテ、之カ解決ニ付テ目下交渉中テアル。

(ホ) 撫順炭等ニ對スル輸出税増徴

明治四十四年撫順煙臺兩炭坑細則議定書第二條、明治四十三年本溪湖煤鐵合辦契約第九條ニ依  
リ、撫順煙臺炭及本溪湖炭ノ輸出税率ハ一噸「メース」ト規定セラレ居ルニモ拘ラス、支那側ハ  
支那新輸出税率三・四「メース」ヲ課セントシタ。我方ハ此條約違反ニ對シ抗議シ交渉シタカ未タ  
ニ最終的解決ヲ見ナイ。

二、屬地的不當課税ノ例

前述ノ如ク滿鐵附屬地内ニ於テハ、假令支那人ト雖モ支那側カラ課税セラルルコトナキカ當然テ  
アルニモ拘ラス、近時支那側ニ於テ種々ノ方法ニ依リ營業税ヲ課セントシテ居ル。我方ニ於テ之  
ヲ阻止スルヤ附屬地外納付ヲ強要シ、又ハ附屬地内ヨリ搬出スル商品ニ對シ營業税二分出產税三  
分ヲ賦課スルノミナラス、脱税防止ノ爲メ取引先タル支那人ニ對シ壓迫罰金ヲ課シ、又ハ附屬地  
境界ニ監視人ヲ配置スル等凡ユル手段ニ依リ納税ヲ強要シテ居ル。甚タシキハ邦人ノ取引商品ニ  
對シテモ同様ノ手段ヲ採ルコト稀テハナイ。然シ此等ハ附屬地行政權ノ侵害ニシテ明カニ不當テ  
アル。

其ノ他滿洲ニ關スル條約附屬協定第八條ニ違反シテ、昭和二年二月一日以降ハ出材ノ吉林產滿鐵  
用枕木ニ對シ、賣主支那人ヨリ木税ノ半額ヲ徵收シテ居ルカ、滿鐵材料ニ對スル不當課税テアツ  
テ明ニ條約違反テアリ不都合テアル。

#### 第四、商租權ノ侵害

一八

商租權ハ大正四年ノ日支條約ニ依リ認メラレタル土地ニ關スル權利テアル。同條約第二條ニ「日本臣民ハ南滿洲ニ於テ各種商工業上ノ建物ヲ建設スル爲メ又ハ農業ヲ經營スル爲メニ必要ナル土地ヲ商租スルコトヲ得」ヘキヲ規定シ、更ニ同條約附屬交換公文ニ「商租ノ文字ニハ三十ヶ年迄ノ長キ期限付且無條件ニテ更新シ得ヘキ租借ヲ含ムモノト了解ス」ル旨ヲ規定シテアル。即チ商租權ハ條約ニ依ツテ認メラレタル正當ナル權利テアル。然ルニ支那側ハ極力之ヲ阻止セントノスルノ態ヲ執リ、例ヘハ大總統令ヲ以テ懲辦國賊條令（私ニ外國人ト契約ヲ締結シテ國家ノ權利ヲ損害シ其ノ他國家ニ不利ナル一切ノ行爲ヲ爲シタルモノヲ賣國罪トシテ死刑ニ處スル趣旨ノ規定ヲ含ム）ナル刑事特別法規ヲ制定シ人民ニ對シ死刑ヲ以テ之ヲ威嚇シテ、土地商租ニ關スル同條約ノ實施ヲ實質的ニ阻害シ、或ハ行政命令ヲ以テ端的ニ之ヲ禁止シ、或ハ商租ノ成立ヲ許可主義ヲ以テシ實際ハ之ヲ許可セサルコトトシ、或ハ多額ノ税金ヲ前納セシムルコトトシテ實際上其ノ成立ヲ困難ナラシメ、其ノ他國有土地ノ拂下ヲ禁止シ、土地ヲ擔保トスル借款ヲ禁止スル等直接間接ニ汎ユル手段方法ヲ講シテ之ヲ妨害スルニ努メ、之ニ關係スル法令訓令又ハ密令等枚舉ニ

違カナイ。

最近ノ著シキ例ヲ舉ケレハ、昭和四年八月奉天政府ノ制定セル懲治盜賣國土暫行條例ニシテ管内各地方官ニ密令シ、私有、官有、公有ノ土地等ヲ外國人ニ賣却又ハ賃貸シタルモノハ、國土盜賣ヲ以テ論シ、死刑又ハ無期徒刑其ノ他罰金ニ處スルコトトシ、昭和六年六月右規則ヲ幾分修正シテ國土盜賣懲罰則ト改メタカ、此ノ支那側ノ不法處置ノ爲メ右條約ハ全然空文ニ歸シ、將來商租權ノ獲得不可能ニ陥入リタルノミナラス、支那側ハ本規則發布以前ノ既得權ニ對シテモ着々奪回ヲ試ミ、例ヘハ昭和四年三月瀋陽縣門台子ニ於テ、東亞勸業公司カ支那人李雲飛ヨリ土地ヲ金一萬圓ニテ商租シタルニ、遼寧省政府ハ委員會ノ決議ヲ以テ右地主ヲ死刑ニ處スヘシト脅迫シテ、昭和五年一月ニ至リ、東亞勸業カ入手シタル右關係地券ヲ地主ニ命ジテ取返ヘサシメタ事實カアル。

右不法法令發布ノ結果一兩年間ニ處罰セラレタル顯著ナル例ヲ舉ケレハ

- (一) 新民縣ニ於テ縣下七公台ノ土地ヲ邦人ニ賣却シタルノ故ヲ以テ縣長ハ地主ヲ監禁シ、
- (二) 柳河縣ニ於テハ支那人趙書敏ナルモノ東亞勸業ニ土地ヲ商租セル廉ヲ以テ右土地ヲ沒收シ且邦人管理人ヲ追放シ、

一九

- (三) 本溪縣ニ於テハ支那人カ日本人ニ石灰山ヲ租與シタトノ理由ヲ以テ地主ヲ監禁シテ石灰山ノ沒收ヲ企圖シ、
  - (四) 輯安縣ニ於テハ支那人カ我警察派出所ニ家屋ヲ貸與セル廉ヲ以テ家主ヲ監禁シ、
  - (五) 遼寧省各地ニ散在セル鮮人ノ水田經營ニ對シ租地ヲ許サナイコトハ勿論現存ノ小作契約ヲモ否認シ單純ナル雇傭契約ニ改メントノ方針ヲ執ツテ居ル。
- 吉林省ニ於テモ遼寧省同様國土盜賣禁止令ヲ發シテ間島協約ニ依ル鮮人ノ土地所有權ヲ無視シ、又其ノ他吉林省各地ニ於ケル鮮人ノ土地買收ヲ不可能ナラシメタルノミナラス、其ノ小作契約ノ期限等ニ付テモ干渉シツアル有様テアル。
- 而シテ右ノ如ク關係支那人ニ對シ不法苛酷ナル壓迫手段ヲ用ヒルノミナラス、又相手方タル邦人ニ對シテモ直接間接ニ壓迫妨害スル。其ノ最近ノ著シキ例一二ヲ舉クレハ
- (一) 奉天北陵ニ於ケル柳原農場ニ對シ、支那官憲ハ大正十三年以來之カ返還ヲ強要シ屢々派兵シテ鮮人小作人ニ暴行ヲ加ヘ、同十四年ニハ獨斷ニテ同農場ヲ橫斷スル鐵道線路ヲ敷設シ、更ニ昭和四年四月農場ノ一部ヲ侵害シテ停車場ヲ建設シタル事件
  - (二) 昭和四年五月奉天西公大堡ノ東亞勸業公司農場ニ對シ、支那官憲カ附近部落民百五十名ヲ煽

動ヲシテ襲撃ヲ加ヘシメ爲ニ耕作地ヲ破壊セラレ公司員ニ即死者一名負傷者數名ヲ出シタル事件

此等ハ其ノ一例ニ過キス、支那側ノ商租妨害手段ハ最近益々峻烈ヲ加ヘツツアル爲メ、邦人カ條約上得タル正當ナル權利モ、實際上著シク阻害セラレツツアル有様テアル。

尙ホ商租權トハ無關係ナルモ、別箇ノ條約ニ基イテ滿鐵カ得タル土地買收ニ關スル權利モ、前述ノ如キ事情ニ制セラレテ矢張妨害ヲ受ケテ居ル、滿鐵附屬地用土地買收妨害ノ如キ其ノ一例デア

ル。即チ鐵道ノ建設經營及ヒ保護ノ爲メニ必要ナル沿線土地ハ、東支鐵道建設及經營ニ關スル契約第六條ニ依リ、當然滿鐵カ租用シ得ルニモ拘ラス大正四五年頃ヨリ支那側ハ極力滿鐵ノ土地買收ヲ妨害シ始メ之カ爲メ懸案トナレルモノ五六十件ニ達シタ。

## 第五、朝鮮人壓迫

三三

滿洲支那官憲ノ朝鮮人壓迫ハ今ニ始マツタコトハナイ、顧ミレハ昭和二年滿洲全般ニ互ツテ起ツタ排日運動ノ餘波ヲ受ケテ、同年末俄ニ熾烈トナツタノヲ一轉機トシ、殊ニ翌三年秋東三省ニ所謂青天白日旗カ掲揚セラレテ支那本部ヲ風靡シタ國權恢復熱カ滿洲ニモ騰マツテ來ルニ伴ヒ次第ニ露骨トナツテ來タ。

抑モ支那官憲ハ動モスレハ朝鮮人ノ滿洲移住及ヒ朝鮮人カ歸化ヲ許容セラレ居ラサルコトヲ以テ恰モ日本カ滿蒙侵略ノ意圖ヲ有スル證左テモアルカノ如ク曲解シ、或ハ歸化ヲ強要シテ朝鮮人ヲ悉ク其ノ權下ニ服セシメントシタリ、又ハ犯罪ヲ口實トシテ追放處罰ヲ爲シ、或ハ故ナクシテ退去ヲ命ジタリ、或ハ小作ヲ禁止スル等ノ直接手段ヲ以テ朝鮮人ヲ壓迫シタ。近來ハ更ニ他ノ方法ヲモ考ヘ支那人地主又ハ家主ニ對シ朝鮮人ニ土地又ハ家屋ヲ讓渡貸貸スルコトヲ禁シ、或ハ支那人地主ニ對シ朝鮮人トノ小作契約ヲ禁止シタリ制限シタリ、或ハ朝鮮人ノ經營スル私立學校ヲ回收シタリ改編シタリ、或ハ朝鮮人ノ移住ヲ阻止スル爲メ南方支那移民ヲ獎勵スル等ノ間接手段ヲモ併用シ、此ノ目的ノ爲メニ省政府等ノ出シタ各種ノ訓令又ハ密令ハ殆ト枚舉ニ遑ナク、之カ

爲メ鮮農ノ被ツタ大小ノ壓迫事例ハ極メテ多數ニ上ツタ。

試ミニ昭和三年ヨリ同五年ニ至ル三ヶ年間ニ於ケル退去強要、不當課税、學校ノ閉鎖回收改編、歸化強要、小作禁止等被壓迫事例ノ顯著ナルモノノミニテモ凡ソ百件以上ニ達シ、微細ノ事例ニ至ツテハ一々列舉スル煩ニ堪ヘナイ。

之ト同時ニ朝鮮人カ支那軍警ノ不法又ハ不當行爲ニ依ツテ被ツタ身體財產上ノ損害モ亦少ナカラサルモノカアリ、之カ一斑ヲ示セハ昭和五年間島地方ニ於ケル共產黨暴動事件以來、之カ取締ニ當レル支那軍警ノ爲メ、無辜ノ朝鮮人ニシテ殺傷セラレタルモノ、又ハ財物ノ強奪セラレタルモノ多ク、被害金額モ亦多額ニ上ル状態テアル。

左ニ顯著ナル事例數種ヲ舉クレハ

### (一) 小作契約ノ禁止

從來朝鮮人ハ支那人地主カラ土地ヲ借リテ水田ヲ作リツツアツタカ、數年前カラ支那官憲ハ朝鮮人トノ小作契約ヲ禁シ單ナル雇傭契約ノミヲ認ムルコトトシ、此ノ旨秘ニ訓令シ朝鮮人ヲ壓迫シテ居ル。

(イ) 昭和四年五月中西豐縣譚家炳及河北居住鮮農小作人ニ對シ、支那官憲ハ地主ヲ強制シテ耕

三三



作土地ヲ引上ケシメタ。

同縣内他地方ニ在リテモ水溝ニ使用ノ土地使用料ノ値上ケテ地主ニ強要シタモノカ多イ。

(ロ) 昭和四年四月中鐵嶺縣范河溝居住鮮農金興涉ハ支那人地主ト借地契約ヲ結ヒ小作ニ從事中、支那官憲ハ地主ヲ壓迫シ契約ヲ廢棄セシメタ。

(二) 居住ノ壓迫(退去命令)

朝鮮人居住取締ニ關スル秘密訓令ハ枚舉ニ遑ナク、退去命令ヲ受ケタル朝鮮人亦相當多數ニ上ツテ居ル。

最近ノ著例

(イ) 昭和六年三月中本溪縣興隆山居住鮮農五戸ニ對シ、地主ハ縣長ノ命ナリトテ退去ヲ迫リ、萬一引續キ小作ヲ欲スルナラハ小作料倍額ノ前納ヲ要求シタノテ、鮮農ハ已ムヲ得ス引揚ケルコトニ決シタ。

(ロ) 昭和六年三月中寬甸縣瀋河村ニ於テ、公安局員ハ朝鮮人ノ居住ハ共產黨其ノ他不祥事件ノ禍根トナルヲ以テ之ヲ驅逐スヘシトテ、約二十戸ノ鮮農ヲ強制退去セシメタ。

(ハ) 昭和六年七月中支那官憲ハ、扶餘縣陶賴昭居住鮮農十五戸四十五名ヲ共產黨取締ニ藉口シ

強制的ニ退去セシメタ。

(ニ) 昭和六年八月康平縣楊家窩堡居住鮮農三戸ニ對シ、支那人地主ハ突然退去ヲ迫リ、支那巡警ヲ同道シ來リ、家具ヲ破壊シ家族ヲ毆打負傷セシメ遂ニ立退ヲ餘儀ナクセシメタ。

(三) 學校ノ設立制限並閉鎖

朝鮮人カ兒童教育ノ爲メ學校ヲ設立セントスルニ對シ、之ヲ制限又ハ禁止シ(例、民國二十年七月七日遼寧省教育廳通令)、或ハ支那側經營ノ學校ニ朝鮮人ヲ收容スルコトヲ禁シ(民國二十年八月遼寧省教育廳訓令)、更ニ進ンテハ朝鮮人カ既ニ經營シテ居ル學校ノ閉鎖ヲ命シタ(民國十九年四月十八日吉林省政府主席訓令)。

最近ノ著例

(イ) 昭和六年三月懷德縣五家子所在朝鮮人學校三成學校ハ、支那側ヨリ支那小學校ニ改編セラレ、朝鮮語ノ使用ヲ禁止セラレタ。

(ロ) 昭和六年四月支那官憲ハ、吉林省榆樹縣三家子所在朝鮮人學校三興學校ヲ共產黨員養成所ナリト稱シ、之ヲ閉鎖シ、教師二名ヲ放逐シタ。

(四) 不法 監禁

支那官憲ハ不逞朝鮮人取締ニ名ヲ藉リテ、正業ニ従事スルモノニ對シテモ種々ノ名目ノ下ニ迫害ヲ加ヘ、或ハ不法ニ監禁シ、或ハ賄賂ヲ強要スル等ノ事實カアル。一例ヲ舉クレハ、昭和五年七月敦化縣城在住ノ朝鮮總督府囑託醫康富達ハ、共產黨ノ一味ナリトシテ支那官憲ニ監禁セラレ、我方ノ交渉ニ依リ釋放セラレタカ、同地ヨリ追放セラレタ。

(五) 歸化ノ強要

支那側ハ在滿朝鮮人ヲ歸化セシメテ完全ニ自國ノ統治下ニ置カントシ歸化ヲ強要シ、而モ多額ノ手数料ヲ徵收シテ居ル、二三ノ例ヲ舉クレハ

- (イ) 昭和五年三月末懷德縣五家子居住朝鮮人ニ對シ、公安局員ハ歸化ヲ強要シ(手数料二三〇圓ヲ要ス)應セサレハ退去ヲ命スヘシト脅迫シタ。
- (ロ) 昭和二年末ヨリ臨江縣六道溝地方居住鮮農ニ對シ、歸化ヲ強要シ應セサルモノハ歸化スヘシト脅迫シタ。
- (ハ) 昭和二年十月吉林省吉林縣地方ニ於テハ、支那官憲ヲ朝鮮人各戸ニ派シ歸化ヲ強要シ(入籍料二十元ヲ徵ス)肯セサルモノハ年内ニ退去スヘシト命シタ。

(六) 間島協約ノ不履行

間島協約ニ於テハ朝鮮人ノ土地ノ所有權ヲ認メテ居ルニ拘ラス支那側ハ前記ノ通り國土盜賣禁止ノ密令ヲ發シテ朝鮮人ノ土地所有權獲得ヲ許サス、又朝鮮人ハ米穀輸出ノ自由ヲ有スルニ拘ラス支那側ハ之レヲ阻止シテ居ル爲メ間島朝鮮人ノ産米ハ之レヲ對岸ノ朝鮮ニ賣ルコトカ出來ス、經濟上大打撃ヲ受ケテ居ル(朝鮮ニ比シ間島ノ米價ハ約半値)。尙ホ間島協約ニ於テハ、人命ニ關スル朝鮮人被告事件ニ就テハ日本國領事ニ知照スルコトトナツテ居ルニ拘ラス之レヲ實行シタコトカナイ。

抑モ現在滿洲ニ在ル朝鮮人八十萬ノ内其ノ九割迄ハ農業ニ従事シテ居ル。其ノ耕作ニ係ル耕地ノ面積ハ間島地方ニ於テ畑約十七萬六千町歩、水田約一萬二千五百町歩、又間島以外ノ滿洲ニ於テハ畑約三萬四千町歩、水田約四萬五千町歩ト云フ割合ニナツテ居ル。農耕ノ上ニ於テモ水田耕作ハ朝鮮人ノ特技トサレテ居ルモノテアルカ、支那人ハ此ノ水田耕作ヲ知ラス不毛ノ荒野トシテ放棄シテアツタノヲ、朝鮮人カ漸次之ヲ開拓シテ、今日ノ如キ耕地ヲ形作ツタノテアル。然ルニ内亂ノ熄マサル支那本部カラ移住スル支那人カ激増スルニ及ンテ、朝鮮人ハ日本ノ滿洲侵略ノ先驅者ナリト曲解セラレ其ノ壓迫カ次第ニ強クナリ、前述ノ如ク國土盜賣懲罰則等ニ依ツテ土地ノ

購入カ不可能トナツタノミナラス、既ニ所有シテ居タモノ迄モ取上ケラレ、果テハ小作契約サヘ  
五年ヨリ三年、三年ヨリ一年、遂ニハ禁止セラルルニ至ツタカ、永年手ニ掛ケタ土地ニ對スル愛  
着心ハ彼等ヲシテ尙ホ單ニ雇傭契約ヲ結ンテ勞役ニ従事スルコトニ甘ンセシムルニ至ツタカ、最  
近ニ至ツテハ夫サヘ許サレス住ミ馴レタ土地ヲ無殘ニモ逐ハルルニ至ツタ。

二八

## 第六、其ノ他ノ條約違反著例

### 一、奉天城内居住邦人壓迫

奉天ハ一九〇三年ノ米支通商條約ニ依リ開放セラレタルモノナルカ奉天支那官憲ハ奉天城外ニ商  
埠地ヲ設定シ、此處ニ限リテ外國人ノ居住營業ヲ許ストノ不當ナル主張ヲ固執シテ、我方並ニ關  
係諸國屢次ノ抗議ヲ無視シ、城内居住邦人ニ對シ家主迫害ノ方法ヲ以テ退去ヲ餘儀ナカラシメタ  
ル結果、最近ニ於テハ城内殘留者僅少トナツタ。

### 二、製造品差別待遇（鐵道運賃差別待遇）

一八四四年米支間望厦條約第十五條ニ於テハ外國人ノ取引ニ對シ、專賣其ノ他ノ有害ナル束縛ニ  
依リテ其ノ業務ヲ束縛スルコトナキ旨明定シ居ルニ拘ラス、本年東北四省ニ於テハ燐寸專賣制ヲ  
布キ、邦人ノ燐寸製造又ハ輸入ニ妨害ヲ加ヘテ居ル。又「ワシントン」九ヶ國條約第五條ニ於テ  
ハ、支那ニ於ケル同鐵道ヲ通シ不公平ナル差別ヲ行ハサル旨明定シ居ルニ拘ラス、支那側ニテハ

二九

我方及外國ノ屢次ノ抗議ヲ顧ミス右規定ヲ以テ外國品相互間ニ於ケルモノト曲辯シ、支那國內製  
品ニ對シテ鐵道運賃ヲ輕減シ外國品ニ差別待遇ヲ與ヘテ居ル。

三〇

### 三、鑛山經營妨害

明治四十二年ノ滿洲五案件ニ關スル協約並ニ明治四十年東三省督撫對奉天總領事間議定書大綱ニ  
基キ安奉沿線ノ鑛務ハ、日支兩國人ノ合辦ト爲スヘキモノナルニ拘ラス、支那側ハ右協約ヲ無視  
シテ青城子、牛心台、田什府其ノ他ノ合辦鑛業ヲ妨害シタ。其ノ理由トスル所ハ何レモ鑛業條令  
違反云々ト云フニアルモ、鑛業條令ナルモノハ一九〇二年英清通商條約第九條ニ違反セルノミナ  
ラス、治外法權ノ原則モ無視セル法令ニシテ、斯ル不當ナル國內法ヲ以テ我カ條約上ノ權利ヲ妨  
害スルハ甚タ不都合テアル。